授業科目　スクールソーシャルワーク論

【担当教員名】	対象学年	4	対象学科	社会
丸田　秋男	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	○

【概要・一般目標：GIO】

日本におけるスクールソーシャルワークのあゆみと制度的成り立ちを理解した上で、スクールソーシャルワーク実践の理論と方法を身につける。

また、実践事例のカンファレンスをとおしてスクールソーシャルワーカーに求められる総合的な力量を形成する。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．日本におけるスクールソーシャルワークのあゆみと制度の現状を正しく理解することができる。
2．スクールソーシャルワークの概念を構造的に捉えることができる。
3．学校の管理運営制度や子どもの学校生活との関連においてスクールソーシャルワーカーに求められる倫理と役割を身につけることができる。
4．スクールソーシャルワーカーに求められる総合的な力量形成を目指すことができる。
5．関係者によるカンファレンス能力の基本を身につけることができる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	日本におけるスクールソーシャルワークのあゆみ	1	講義
2	スクールソーシャルワークの現代的意義と制度の現状	1	講義
3	スクールソーシャルワークの概念とその構成要素	2	講義
4	学校の管理運営制度と子どもの学校生活	2・3	講義
5	スクールソーシャルワーカーの倫理と役割	3	講義
6	スクールソーシャルワーク実践のための理論と方法（1）	3・4	講義
7	スクールソーシャルワーク実践のための理論と方法（2）	3・4	講義
8	スクールソーシャルワーク実践のための理論と方法（3）	3・4	講義
9	スクールソーシャルワーク実践のための理論と方法（4）	3・4	講義
10	実践事例のカンファレンス（1）	4・5	講義・演習
11	実践事例のカンファレンス（2）	4・5	講義・演習
12	実践事例のカンファレンス（3）	4・5	講義・演習
13	実践事例のカンファレンス（4）	4・5	講義・演習
14	国際比較と今後の方向性	1～5	講義
15	まとめ	1～5	講義

【使用図書】	＜書名＞　＜著者名＞　＜発行所＞　＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	教員作成プリントを用いる
参考書	必要に応じて紹介する
その他の資料	必要に応じて配布する

【評価方法】

出席状況、カンファレンスへの取組、レポート等により総合的に評価する。

【履修上の留意点】

実践事例のカンファレンスをとおして実践的な授業を展開するので、主体的な学習態度が求められる。